

人物探訪
2010年1月24日版メール
マガジン

国際派日本人養成講座

小林虎二郎／人作りは国作り

賊軍として破れ、どん底に陥つた長岡藩で「食えないから学校を立て」と說いた男がいた。

1. 「米百俵の精神」

「米百俵の精神」とは、2001(平成13)年5月7日、小泉首相の所信表明演説で有名になった言葉である。それは次のような一節だった。

明治初期 敵しい窮屈の中についた長岡藩に、救援のための米百俵が届けられました。米百俵は、当座をしのぐために使つたのでは数日でなくなつてしまします。しかし、当時の指導者は、百俵を将来の干儀、万俵として活かすため、明日の人づくりのための学校設立資金を使いました。その結果、設立された国漢学校は、後に多くの人材を育て上げるこ

ととなつたのです。今の痛みに耐えて明日を良くしようといふ姿勢に陥っている。「米百俵の精神」こそ、改革を進めようとする今日の我々に必要ではないでしょうか。

小泉首相の実際の業績は別にして、この「米百俵の精神」は多くの国民の心に響いた。

それから10年後、子ども手当などのバラマキ政策を、国家予算の半分近くを国債

への借金のつけ回しで賄おうとする現在の我が国は、「痛みを明日に回して今日を良くしよう」といふ姿勢に陥っている。

敗戦後の再建を任せられた小林虎二郎である。

「米百俵」の事績を残したのは、明治初年、戊辰戦争で旧幕府側として新政府軍と戦つて敗れた長岡藩(現在の新潟県長岡市・帶)で、大参事として政

策を、国家予算の半分近くを国債

への借金のつけ回しで賄おうとする現在の我が国は、「痛みを明日に回して今日を良くしよう」といふ姿勢に陥っている。

敗戦後の再建を任せられた小林虎二郎である。

「米百俵」の事績を残したのは、明治初年、戊辰

戦争で旧幕府側として新政府軍と戦つて敗れた長岡藩(現在の新潟県長岡市・帶)で、大参事として政

策を、国家予算の半分近くを国債

への借金のつけ回しで賄おうとする現在の我が国は、「痛みを明日に回して今日を良くしよう」といふ姿勢に陥っている。

敗戦後

